

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2016~2017年度 No.209

6月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：評価



5月(入会式・YMCA活動報告)例会 4月29日(土) 於：西那須野教会

2016~2017年度 主題
国際会長：(IP) Joan Wilson (カナダ)
「私たちの未来は、今日より始まる」
アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事：(RD) 利根川 恵子(川越)
「明日に向かって、今日働こう」
北東部長：長岡 正彦(もりおか)
「明日のために、今土台を築こう」

クラブ役員 事務局
会長：田村 修也
副会長：村田 榮
河野 順子
書記：内海 研治
会計：鈴木 保江
担当主事：内海 研治
ブリテン：田村・村田

5月例会データ(出席率：66.6%)
在籍者 6名
例会出席者 4名 メネット 1名
ゲスト 8名

今月の聖句
人は目に映ることは見るが、主は心によって見る。
サムエル記上16：7

東京目黒クラブ 那須クラブ
6月 Happy Birthday
なし なし

巻 頭 言

副会長 村田 榮

1年を振り返って

小生が、那須クラブに転会して5年が過ぎようとしている。2015年3月の20周年記念例会は心に残るものでした。2016～2017年度は、田村会長の3年目。クラブチャーター以来変わることなく続けている活動の大きなものとしては、年2回の植樹例会と2月の公開講演会であると思う。今年度の大きな特徴は、例会等にユースリーダーにもっと積極的に参加を促すような活動の展開と日本の伝統文化に触れることであったと思います。植樹例会は、塩那森林署の指導・協力のもと、ガールスカウトの協力得て、松を植えることだけでなく松の保育と温暖化の防止について学び、そして新しい試みがありました。それは、森林づくりの一つである地掻（じがき）と言って草やいつて小枝に覆われた表面・草を取り除き、自然に落ちた松の種が落ち、芽が出やすく出るようにする方法です。田村会長の説明では、この方法でやると良い松が生えるそうですが、仕事としては植え付けよりもしんどい作業でした。次年度以降の植樹例会が楽しみです。公開講演会は、那須日赤の看護師を迎えて、昨年に引き続いての「認知症について」学ぶ機会が与えられた。認知症について深く学ぶことが出来ました。認知症の家族を抱えるものとしては良い勉強の機会でした。次年度はまた少し違ったことを学びます。9月例会での茶道についての学びの場は私にとって新しい事でした。

この1年、素晴らしいタラントを持つメンバー・メネット、ワイズの例会にご出席をしてくださる、ワイズ・YMCA支援者の方々より良い刺激を与えられましたことに感謝します。また、ブリテンを通して様々な活動をされていることを知らせてくださる西那須野幼稚園の福本園長先生、アジア学院の荒川校長先生、エルム福祉会の川上施設長、ご多忙の中原稿を期日までにお送りくださり本当に感謝です。この1年間皆様に支えられて遅れながらもブリテンが発行することが出来ました（メネットに叱咤激励をされながら）。

最後のとても残念なことが2点あります。その一つは、もっとユースリーダーとの交わりがほしかったと感じています。もう一つは、12月ブリテンの巻頭言にも書きました、東京目黒クラブの解散です。那須クラブの20周年記念例会の於いてDBCを締結しクラブ交流を通じて他のクラブの活動の様子を知ることが出来たこと。東京目黒クラブの活動の様子を知ること、わがクラブの活動を北東部だけでなく、東日本区の活動に目を向けることが出来るようにしてくださっ

たことは感謝します。

次年度もさらなる前進をしていきましょう。新しい「DBC」と「メンバー増強」に努めましょう!!那須YMCAの活動を支援する体制を確固なるものにしていきましょう!!

5月（入会式・YMCA活動報告）例会

担当主事 内海 研治

日時：5月26日（金）18：30～20：30

場所：西那須野教会1階ホール

参加者：田村会長、河野副会長、村田副会長、内海メネット：田村

スピーカー：塩澤とちぎYMCA総主事

ゲスト：、荒井とちぎYMCA主事、潘炯旭牧師夫妻（西那須野教会）、石川夫妻、飯沼さん、さわーリーダー（那須Yリーダー）

合計：13名

5月例会では、村田副会長の聖書朗読・祈禱のあと、荒井担当主事の後任となる内海担当主事の入会式が行われました。ワイズメンズクラブの目的と意義に



ついて読み上げられ、手を挙げて宣誓が行われました。田村会長よりワイズのバッジを胸に付けていただき、入会の承認となりました。

また、今回の例会には塩澤総主事を迎え、『“日本YMCA”の生まれ変わりと、とちぎYMCA中期5ヵ年計画+40周年記念と、・・・』という表題でお話を頂きました。塩澤総主事からこれからの行動目標として以下のように示されました。とちぎYMCAは、一人ひとりの役割や出番、大切にしたい人やものごと、したい何かが『みつきり』、人と人との『つながり』のなかで、皆が『よくなっていく』、かけがえのない居場所を目指します。また、人と人が出会い、寄り添う小さな歩みや試みを重ねて、個性や多様性を大切にし、お互いを認め合い、高めあう『ポジティブネット』のある豊かな社会を創ることを目標とします。そのために、『心をひらき、分かち合う、前向きで、まわりを惹きつける魅力を持つ』といった、イエスキリストに示されたパーソナリティと生き方に倣い学び、行動の目標とします。

このように「生まれ変わり」が必要になった背景には、YMCAの課題に由来します。日本のYMCA

は、創立以来、青少年活動の先駆的な役割を果たし、YMCAブランドを維持してきましたが、現代では「よく知らない、イメージがわからない」という団体であり、このままでは、将来にわたって使命を果たしつづけることが困難となり、存立の危機と言わざるを得ません。また、財政的にも課題がより大きくなるものと考えます。そこで、2014年から3年間、YMCA本来の宝を今一度発見し、これからの時代において価値となる「YMCAとは」を考え抜き、コンセプトに仕立て直すことに取り組んできました。



先に記した、「ポジティブネット」のある豊かな社会をつくることは、パリ基準において謳

われたYMCAのミッション「神の国の拡張」につながるものです。イエスは、「神の国は、からし種のようなものである。土を蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る（マルコ 4：31-32）」と言われました。わたしたちはYMCAから「ポジティブネット」が世界に広がっていくビジョンを共有し、この空の鳥が集い、互いに寄り添って巣を作るように、人々を惹きつけ、そこにかげがえのない場所を見出すことを目指していきます。

5月役員会報告

日 時：5月12日（金）18：30～
場 所：ココス西那須野乃木店
出席者：田村会長、村田副会長、内海書記
田村メネット
協議事項

1. 5月例会について

日時：5月26日（金）午後6時30分～。場所：西那須野教会1階ホールにて。内容：内海担当主事の入会式と塩沢とちぎYMCA総主事を迎えて、YMCA活動についてのお話をさせていただく。案内：YMCA関係者とユースリーダーに案内をする。司会担当：田村会長。夕食の準備：カレーを準備、お釜はYMCAよりお借りする。カレーづくりは内海担当主事。お米とじゃがいもは村田副会長が準備。

2. 6月例会について

河野副会長の叙勲お祝い会を行う。日程については、河野副会長の都合で調整をする。

3. 6月役員会について

6月2日（金）午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。

協議内容は6月例会、新年度計画、その他、ブリテンの原稿

5. その他

・第20回東日本区大会 6月3日（土）・4日（日）
場所：ウエスタ川越。

・チャリティーラン 6月25日（日）場所：栃木県総合運動公園陸上競技場。那須クラブより寄付金10,000円。当日、那須クラブとしてシイタケ昆布の販売を行う。

・シイタケ昆布の購入について、5月の例会日までに購入する。

今後の予定

・第20回東日本区大会

日時：6月3日（土）・4日（日）
会場：ウエスタ川越

・6月役員会

日時：6月2日（金）午後6時30分～
場所：ココス西那須野乃木店
内容：6月例会、次年度計画、6月号ブリテンの発行等。

・6月（河野ワイズ叙勲お祝い会）例会

日時：6月16日（金）午後6時～
場所：ピッツェリア ウスイ
住所：大田原市美原1-1-9
電話：0287-47-6560

・第12回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2017

日時：6月25日（日）9：00～14：00
場所：栃木県総合運動公園 陸上競技場

旧西那須野（那須西原）の緑と水（51回）

田村修也

その頃の状況を、当時の那須開墾社の農業日誌の82頁以下から辿ってみます。

7月6日晴 田代荒次郎君、岩崎出張ノ際来社。印南・矢板正午東京ヨリ帰社。直ち二県令出張先三島村へ出頭ス。二ツ室移住人4人力役。

7月7日晴 85度

齋藤半次郎郡役所へ出頭、事故アリテ直チニ帰社。之ヲ矢板君ニ伝へ、三島村出張先印南へ照会、齋藤ヲ再ビ郡役所へ参ル。暫時ニシテ、印南・矢板モ郡役所ニ至ル。田代君モ岩崎ヨリ帰り、故ノ家へ付ク、諸事手配ヲシテタ刻帰社。矢板自宅へ帰ル。

7月8日 晴午後大雷雨 88度

福島県下安積疏水掛出張所ヨリ、工夫渡辺耕外吉人、岩崎村工事着手ノ為メ、来社ニ付、齋藤ハ同人ヲ伴ヒ、大田原ニ至リ、米味噌等ノ手配ヲナシ、午後帰社。安藤外役所へ出頭矢板来泊、本日ノ農業左ニ、移住民6人共ニ入ル。

7月9日 晴夕大雷雨

印南・矢板、今朝疏水係長南権少書記官大田原御出張ノ筈ニ付、同所へ出頭。夫ヨリ御先導、三島村ヲ経テ、岩崎村疏水引入口へ出張ノ手筈。齋藤ハ本日三島村ニ於テ開道式ニ付、右移住民ヲ召連レテ同所へ出頭ス安藤囚徒拝借ノ儀ニ付外役所へ出頭、農夫一同午後ヨリ休ム。

7月10日 晴午後夕雷雨 82度

秋元守三藤田富次立木買入ノ為大貫へ遣ス

7月11日 晴夕雨

本日疏水長南君ノ一行大田原へ引揚ル都合ニ依リ午後ヨリ齋藤同所へ出張。

7月12日 朝夕雨

矢板幹事ハ大田原止宿所出発南一郎平君其外随行員ト一同塩原へ出張。印南齋藤南君ヲ御立テ残務ヲ取片付午後帰社。

7月13日 雨

印南齋藤ハ、昼南書記官ノ一行、塩原ヨリ大田原へ御引揚ゲノ御都合ニ付、右兩人ハ同所出張、御待受ケ、矢板御先導ニテ、正午御着。午餐ヲ済シテ御出発、一同モ帰社。矢板自宅へ帰ル。本日ノ農業左ニ。(那須牧場ヨリ種牛交換ノ為牝牛舌頭牽遣ハサル)。

以上の日誌によっても分りますように、印南、矢板両人は、東京から帰って来ても、殆ど休息する暇もなく、連日奔走していた様子がうかがえます。土木局疏水係の南書記官の来原も、勿論試鑿工事関係の要務であったことは言うまでもありません。

工事は、土木局の渋谷吉蔵等が既に測量をしていたので、工事の監督もその方に委託して、7月の月末の頃に着手しました。

この頃また政府大官その他知名の方々に、開鑿状況水路工事視察等に來原する者が多く、殊に大官に対しては、粗略に出来ないの、或いは出迎え或いは随行し、旅宿へ伺候する等、それでなくて大忙しい印南、矢板両人は、全く席温まる暇がない程でしたが、これも皆水路開鑿達成の熱意からで、その活動ぶりは真に

涙ぐましいことであつたと推測されます。

隧道試鑿工事については、那須開鑿社は主として森与平をその任に当たらせ、土木局派遣の技術者渋谷吉蔵等と、密接な関係を取りながら、工事促進に協力致しました。

このようにして工事は順調に進捗して行きました。しかし再三の請願陳情にも拘わらず、大水路開鑿の許可は、なかなか下りませんでした。たまりかねて印南、矢板両人は、次のような請願書を提出すると共に、明治17年10月10日に、第4回目の上京をして同月21日まで東京に滞在、更に11月12日第5回目の上京を12月28日まで行って、猛運動に奔走したのでした。(次回に続く)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫

正解の無い時代を生きるこれからの子どもたちの非認知スキルを培う上で、世界をリードしているニュージーランドの乳幼児期のナショナルカリキュラムである新版「テファリキ」と同国の第三者評価機関であるEROによる乳幼児保育施設の第三者評価、現場の保育の研修に来ています。4日目である今日の研修会後の会食中に、田村修也ワイズ会長より電話をいただきました。席に戻りYMCA関係者からの電話と伝えると、同席の2人の園長先生が、「あのYMCAからですか!」と驚嘆の声をあげられました。それはこちらが驚く位の勢いでした。1人は大分県国東市の住職でもあるM園長先生、そしてもう1人は宮崎県日南市のI園長先生、2人の共通点は九州というだけで、YMCAとは縁もゆかりもなさそうです。彼らは続けて、熊本地震でのYMCAが中心をになった復興支援活動に深い感謝の意を表されました。私は、とちぎYMCAからも参加したことをお伝えしました。九州ではYMCAの献身的な活動がとても評価され、みんなの知るところになっています。改めてYMCA、支えるワイズの素晴らしさを知りました。

今回は、栃木県では民間初の児童発達支援センター「シャローム」開所式の挨拶を紹介させていただきます。

開所式挨拶お礼

「本日は、那須塩原市長君島寛様をはじめ、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用のところ開所式にご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。

本園の母体である西那須野教会の皆様への祈りに支えられ、児童発達支援センター『シャローム』が、1年

4ヶ月間の準備の時を経て、4月1日からスタートしました。栃木県では民間初、幼稚園併設としては日本初であろう児童発達支援センターがこの那須塩原市に出来ました。開設にあたり、栃木県、那須塩原市、とちぎりハビリテーションセンター、そして関係の皆様には、多大なご指導・ご尽力をいただき、感謝申し上げます。専任の専門スタッフに加え、アドバイザーとして、今朝仙台よりお越しいただいた宮城教育大学名誉教授長谷川茂先生、国際医療福祉大学教授畦上恭彦先生がご就任下さり、大変こころ強い限りです。

インクルーシブ教育は、しょうがいの有無を越えて、その子1人1人に応じた教育環境を整えることです。この『シャローム』が、関連機関の『西那須野幼稚園』、『こひつじ保育園』、放課後児童クラブ『わくわく』・『のびのび』の施設とインクルージョンされることにより、入り口は違いますが、地域の0歳から小学6年生までのすべての子どもたちが共に育ち合うインクルーシブな環境、そして、切れ目のない子育て支援の環境が整いました。

また、保育所等訪問事業という機能は、地域の幼稚園、保育園、認定こども園、学校に専門スタッフを送り、しょうがいのあるこどもたちが生活している場所で、そのスタッフ共に課題を分かち合うことが出来ます。例えば発達しょうがいのあるお子様にきめ細かい後方支援を行うことによって、二次障害といわれている不登校であるとか、ひきこもりであるとか、現場の保育スタッフの燃え尽きを予防することも期待されているところです。

これからスタッフ一同、地域の児童発達支援センターとして、すべての子どもたちの幸せを願い、努力を尽くしていく所存です。この那須塩原モデルが、広がっていくことにより、共に生きるという子どもたちの輝く未来が切り拓かれることを確信し、挨拶いたします。

最後に、まだ、スタートの環境が整ったばかりですので、更なる皆様のご指導・ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

アジア学院たより

学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
校長 荒川朋子

2011年3月11日の東日本大震災により東京電力福島第一原子力発電所での事故が発生し、福島県を中心に東日本各地で放射能汚染というかつて無い環境汚染がもたらされた。それまでは、私たちが住んでい

るここ栃木県北は、山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれ、四季を通じ景観の素晴らしさは多くの観光客が訪れ、その自然の美しさに加え、春には山菜、秋にはきのこのなど自然の恵みをも提供してくれていた。放射能の被害についてはすでにあまり取り上げられることもなく、関心を持つ人も減り、見た目は福島原発事故前と何も変わっていないように見えるが、実際はこの原発事故によって、ここ栃木県北の豊かな自然は多大な被害を受け、一変した。

アジア学院は1973年からアジア、アフリカ等の発展途上国と呼ばれる国や地域の農村指導者を招き、9か月間の農村指導者研修を行ってきたが、この原発事故は私たちの研修の基盤とも言える有機農業による共同生活の営みを脅かした。そこで事故直後から、アジア学院は栃木県北部で始まった放射能測定と除染活動のための住民運動「那須を希望の砦にするプロジェクト」に立ち上げから関わり、地元住民の皆さんと、特に子供の集まる場所や通学路の空間線量の計測と、食材、非食材の計測を行ってきた。幸いにも2012年1月より、寄贈された放射能測定器を有する市民放射能測定所「アジア学院ベクレルセンター」をアジア学院に隣接する那須セミナーハウス内に開設することができ、那須塩原地域での食材、非食材の計測が可能になった。これまで約4800件の食材・非食材の測定とデータの蓄積を行ない、汚染状況をきっちり把握し、その実態数字の結果を、検体を持ち込んだ方々にはもちろん、勉強会、講演会等を通じて一般市民に注意喚起させるなどの啓蒙活動を行い、自然との共存、共生を意識しながら一般市民に対して正しい知識の向上を目指すとともに不安解消に向けた一連の取り組み活動を行ってきた。測定ボランティアの皆さんは、講演会、講習会、放射能や被ばくによる健康被害などについて積極的に勉強し、住民のために内部被ばくの不安解消や、子供の健康被害が出ないようにアドバイザー的役割も担ってきた。また地域のお祭りや人の多く集まるイベント等で参加し、の放射能に関する啓蒙活動にも力を入れてきた。

アジア学院の学生やスタッフなどは、学院内で栽培された農作物で食事をとるため、測定された食物を使用することで学生の内部被ばくを防いできた。更に、市民団体「那須野が原の放射能を考える住民の会」(N R A R P)などに測定データを開示し、那須塩原市や栃木県に除染の要望などの活動も行ってきた。事故から5年10ヶ月が過ぎた現在、除染をおこなった住宅地周辺の汚染度は当初より半分程度に低減され、一時の混乱はなくなった。しかしながら、山菜やきのこの山のは、国の基準(100Bq/Kg)超えはおろか、

数十倍を超えるものも多々あり、国や県の出荷制限などがされているが、5年も過ぎたのだから安全という解釈や、事故当初から放射能に関して無関心の方が放射能に汚染された食材を食している場合が考えられ、家族を含め幼児まで食している事も考えられる。内部被ばくも懸念されるので、このような高汚染による食は絶対阻止しなければならない。

アジア学院ベクレルセンターの運営はボランティア計測員に恵まれ、これまで地域で放射能の問題に不安を抱える人々に大きな貢献ができてきたと思っているが、ここ2年ほどは問題の風化により住民の測定件数は激減して、測定による収入も減り、センターの維持が難しくなっている。しかし、次世代を担う子供に対して将来に不安を残すことはあってはならず、アジア学院としては安全が確認できるまで助成金や寄付を得ながら測定や啓蒙を継続していきたいと願っている。NRARP(那須野ヶ原放射能問題を考える住民の会)のメンバーとしては、栃木県北住民の原発ADRの事務局として協力した。これは栃木県北の住民が放射能問題で、精神的苦痛や生活費の増加などの被害を被ったとして東京電力に対し、約19億円の損害賠償を求め起こした集団申し立てである。アジア学院の評議員でもある粟谷しのぶ弁護士を団長として、原発被災者弁護団が約7000人の住人の申立書を取りまとめて2015年6月にADR(原子力損害賠償紛争解決センター)に提出し、これまで5回の進行協議が開かれているが、現在まで協議は平行線をたどっている。学院としてはこれからもNRARPや栃木県北ADRを考える会とともに栃木県北原発被災者弁護団に協力し、栃木県北の放射能被害について東電側が一定の認定をするように働きかけたいと考えている。

YMCA報告

【マレーシア ペナンYMCA イングリッシュキャンプ 参加者募集!】

英語を学ぶのではなく、英語を使ってお友達と様々なことにチャレンジします。現地のインターナショナルホームスクールには、小学校1年生から高校生までの16名が在籍し、彼らと一緒に勉強したり、マレーシアの伝統文化に触れたり、料理をしたりします。また、スケジュールにはハイキングやビーチ遊びなど、アクティビティも含まれています。他民族国家のマレーシアで人々がどのように共存しているのか、グローバル化を迎えた日本に住む私たちにとって、大きな学びの場になります。

日程：8月2日(水)～8月11日(金)

対象：小学4年～中学3年

費用：25.9万円

【フィリピン ナボタス・タラ村 交流キャンプ 参加者募集!】

ナボタスはマニラ郊外にある漁港です。近年は地方からマニラに仕事を求めて移住してきた人たちが多く住み、住居が密集した貧困地域です。このナボタスの教会を中心とした地域で、現地の青年たちのグループと一緒に交流キャンプを行います。フィリピンの都市と農村、開発と貧困、環境問題など様々な社会問題と一緒に体験したり、異文化理解、ホームステイもしながら、知り、考え、行動するグローバルなキャンプです。

日程：8月16日(水)～8月23日(水)

費用：16.2万円(高校生・大学生には4万円の補助あり)

【第12回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2017】

また今年もチャリティーランが開催されます!今年6月25日(日)に、第12回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2017を開催いたします。当日のランナー、物品寄付、運営ボランティア等を募集しております!是非皆様のご参加をお待ちしております。又、那須ワイズメンズクラブより寄付



金を頂いております。毎年のご協力・ご支援どうもありがとうございます。

日時：6月25日

(日)9:00～14:00

場所：栃木県総合運動公園 陸上競技場

主催：公益財団法人とちぎYMCA

ワイズメンズクラブ(宇都宮・宇都宮東・足利・那須)

【とちぎYMCAサマープログラムが始まります!】

5月29日(月)より、サマープログラムの募集受付が始まります。

宿泊キャンプやデイキャンプなど楽しい企画が盛りだくさんです。是非、沢山の方にお誘い頂き、ご参加をお待ちしております!

WEB先行受付：5/29(月)10:00～

会員電話受付：6/13(火)13:00～

一般電話受付：6/15(木)13:00～

【とちぎYMCA・那須YMCAの6月の予定】

・6/3(土) 那須YMCA ボランティアリーダー新入生歓迎会@国際医療福祉大学

・6/3(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(ネイチャークラフト)

- ・ 6/10 (土) サタデークラブ@八幡山公園
- ・ 6/11 (日) Yキッズ@森林公園
- ・ 6/17 (土) わくわくトライキッズ@みずほの自然の森公園
- ・ 6/18 (日) マイホームきよはら ふれあい祭り@マイホームきよはら
- ・ 6/24 (土) サタデークラブ@なかがわ水遊園
- ・ 6/25 (日) 第12回チャリティーラン@栃木県立総合運動公園
- ・ 6/30 (金) ICEP来日

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

1. 小出 麻由 (こまゆ)
2. 国際医療福祉大学・看護学科



3. 長野県
4. 子供が好きで説明会に行ったら活動が楽しそうだったから
5. はじめてのYキッズ (鉄道博物館)

で子どもたちの元気と素直さに圧倒されたから

6. 優しく患者さんに寄り添える看護師
7. YMCAに入って普段できない経験ができました!

1. 酒井 舞 (シエル)
2. 国際医療福祉大学・看護学科



3. 茨城県
4. 友達に誘われたから
5. 1年生の時に参加させてもらった2泊3日の海キャンプ

リーダー、ディレクター、子供達みんなでひとつのことを楽しむことができたため

6. 看護師
7. 私にとって大好きな子供達と触れ合える場、新しいことが体験できる場です!